

2025「ことばの森教室」 優秀作品紹介

<小学校5年生> 作文課題「一番心を動かされたことを書こう」

5-① 「うわっ」

組み立て体操の練習中。地面に手をついた瞬間、「うわっ。」と口にしそうになってしまった。

私の学校の運動会では、五年生から組み立て体操が始まる。きれいで、高学年の人たちが協力している様子が好きだ。だが、見るのとするのでは話が違ふ。練習は、はじめ室内でやっていた。楽しかったし、失敗もあったが正直「簡単だなあ。」と思っていた。でもいざ外に出てやってみると、砂が手について痛い。困ったのは、ブリッジの時手がすべり、バランスを崩して腰が痛くなった時だ。今まで組み立てを見る側だったときは、演じる側の痛みや苦労など、考えていなかった。実際にやってみると、演じる側がどんなに大変だったか分かった。このことを感じたことで、高学年の仲間入りできたようで嬉しかった。

これからは、大変さを理解し、高学年の仲間の意識を持って練習に臨みたい。

5-② 「超はっ水塗料とは」

万博で、世界のパビリオンを見ました。スペイン、サウジアラビア、トルコなど、色々な場所へ行きました。

特に印象に残ったのが、防水機能がある板です。これを作ったのは、日本の会社なのですが、とてもびっくりしました。水を流すと、ころころ、さらさら、によろよると、水が形を変えながら板をかけめぐっていき、落ちないでゴールにたどり着きます。

不思議だったので、調べてみました。すると、超はっ水塗料をぬっていることが分かりました。これは、水をはじくものだそうです。これに似ているものがあります。それは、ヨーグルトのふたです。ヨーグルトが付かないように工夫したそうです。工場のすぐそばに、ハスが植えてあり、水をはじくところを見て、思いついたそうです。身近にあるものから、すごい発想ができて、すごいと思いました。

このように、発想を広げていくことが、できるようになりたいです。

5-③ 「リレーが気づかせてくれたこと」

「青、赤、白入って。」先生の声。運動会のリレーの練習だ。

とてもドキドキした。私自身、足が遅いと自覚しているからだ。私のせいで負けさせたくない強く思った。練習の結果は1位だったけれど、私の時に差をちぢめてしまったので、すごく負い目を感じていた。

この日まで、私は運動は好きではなかった。だが、リレーの練習が始まってからは、走る練習をしようと思った。やっぱり、私のせいで負けさせたくないし、負けた時、心の底からくやしいと思えるリレーにしたいからだ。たくさん練習をした。休み時間や家での時間も使った。その結果、少し足が速くなってリレーでもあまり差をちぢめられなくなった。

この経験を通して、努力はむだにならないことを学んだ。これからも「できない」を「できる」にするために、めいっぱい努力をしていこうと思う。

5-④ 「林間学校で」

「はあつかれた～。」林間学校の冒険ハイクのことだ。冒険ハイクでは、12のチャレンジポイントを班のみんなで協力して、チャレンジポイントを一周するゲームだ。

友情のフォールは、かべをよじのぼるものだ。わたしたちの班は、友達の背中に乗って、かべを乗り越えてみんなクリ

アすることができた。暗夜行路では、目かくしをして、しょうがい物をよけてロープをつかんで進んだ。前にいた人が、「ここに〇〇があるよ。気をつけてね。」と教えてくれた。最後にちょうせんすることになった私に、先に終わった友達が「こつちだよ。」と声をかけてくれて、私と手をつないでゴールまでつれていってくれて、とてもうれしかった。

この林間学校で仲間と協力したり、助け合うことで大きく心を動かされた。これからの学校生活では、友達と協力し合ったり助け合ったりして、友達の心を動かせる人になりたい。

5-⑤ 「メダカはどこへ」

サラサラサラ、親メダカにエサをあげていた。水面に口を近づけパクパク食べている。ふと見ると、メダカが2匹しかないことに気がついた。なぜだろうか。私はそう思った。

この事件を解決しなければ。私はそう思い、なぜこんなことになってしまったのか原因を考えてみた。私が考えた原因は、「水がきたなすぎたこと」だ。次に入れるメダカのために、水そうをきれいにした。なかなかコケよごれが落ちなかったのも、お皿洗いに使っていたスポンジでこすってみた。落ちなかった。そこから一生けん命こすったら落ちた。

そうじが終わった後、死んでしまったメダカが一匹もいないことに気がついた。予想がはずれ、いっしょにかっていたドジョウが食べてしまったと思った。ドジョウはお腹がへるとメダカを食べてしまうから、これからはこまめにエサをあげようと思った。

5-⑥ 「初めての経験」

ザバーン、波が石に打ち当たる音。友達と行く神奈川県。正直、海に行くのはめんどくさかった。もともと外に行くのが嫌いだからだ。水が流れているだけの場所の何が楽しいのか。最初、そう思った。前日は、別に楽しくないだろうから、何か本でも持っていくことにしようかと思ったが、母に止められてしまった。納得いかなかった。

前日準備した荷物を持ち、バスに乗ったら、眠ってしまった。もしかしたら、行きたくなかったから寝てしまったのかもしれない。海に着き、私は波の音を聞いて、衝撃を受けた。波の音はこんなにも快適な音だと気づいたからだ。海に来て、本当に良かったと思った。

私は、海の音を聞いたことがなかったのにも関わらず、嫌いだと言っていたから、食わず嫌いしてしまったと後悔した。だから、これからは知らないくせに文句を言わないようにしたい。

5-⑦ 「好きという気持ちを大切に」

「変だね。」算数が好きな私はよく言われる。その一言で何度も自信をなくし、算数が好きなことをかくしたことがあった。でも、ずっと算数が好きな人が増えるといいなと思っていた。

そんな時、テレビでやっていたピタゴラスという人を知った。その人は、私と同じで算数が大好きだったそうだ。だけど、私とちがうところがあった。それは、算数の力で世界をおどろかせていたということだ。私は初めてすごいと感じた。ピタゴラスのように、好きなことを好きと言える人になりたいと思った。

その後、私はたくさん本を読んだ。復習や予習もした。そして今年、算数の授業が終わった後に、クラスの一人が「今日の算数は楽しかった」と言ってくれた。まだ、好きになったわけではないけれど、嬉しかった。

これからも、たくさんの人に算数の良さを知ってもらいたい。だから、もっと勉強して、算数が楽しいと思う人を増やしたいと思う。

5-⑧ 「わからない涙」

気づくと涙が出ていた。映画を見て泣いたのは、初めてだった。泣くのは、悔しかった時、悲しかった時が多い。嬉し

かった時に泣いたこともあるけれど、今回は違った。

最近、友達と「鬼滅の刃」の映画を見に行った。そこまで好きなアニメではなかったが、友達と行けることが嬉しかった。しかし、映画を観ていて突然、感動して涙が出た。敵であるはずの鬼の辛い過去、大切な人を殺され鬼になってしまうまでの理由を知って、涙が出た。何で感動したのか、僕には上手に言葉に言い表すことができない。

映画を観て泣くとは思っていなかった。きっと感動して心が動かされたのだと思う。感動した時を、「感動した」で終わらず、何で感動したのか言い表せるようにになりたい。そうすることで、自分の経験や思いを周りの人に伝えられるようにになりたい。これからの自分のために、もう一度、なぜ心を動かされたのか深く考えたいと思う。

5-⑨

「くやしかった運動会」

ぼくは去年、初めて運動会でくやしいと思いました。理由は、去年黄組で練習などをたくさんして、並び方もしっかりと覚えて運動会に挑んだからです。

最後の結果発表で、あと少しの所で優勝できませんでした。はじめは、優勝したチームに「やったね、すごいね」と感じ、笑顔で拍手ができました。喜んでいる友達を見て、ぼくもうれしくなりました。運動会の片づけをして、お父さんとお母さんと弟が待っている所に行く間、急に涙が出てきました。お父さんに、「くやしかったんだな。よくがんばったんだな。」と言われて、もっと涙が出てきました。その時ぼくは、くやしかったんだなと感じて、本当に勝ちたかったんだと思いました。

もうすぐ運動会なので、去年のように一生けん命がんばって、今度こそ優勝したいと思います。チームと協力し、力を合わせてがんばりたいです。

<小学校6年生> 作文課題「ことわざから考えよう」

6-①

「好きは無敵だ」

「つま先きれいになったね。」先生に言われ、私はもっと練習を頑張ろうと思った。今発表会に向けて新体操の練習をしている。曲に合わせて踊ったり、友達と話したりできる。だから私は新体操が好きだ。習い始めた時は、開脚や倒立など、できないことがあったが、毎日柔軟体操やストレッチをして少しずつできることが増えてきた。

「ママに言われなくても、自分から頑張っていてすごいね。だから上手になるんだね。」と母に言われた。その時、まさに「好きこそものの上手なれ」だと思った。好きなことは上達が早い。なぜだろう。好きなことをやっていると、ワクワクドキドキする。たまに大変なこともあるけれど、嫌だとは思わない。

何かを好きだという気持ちは無敵だ。自分の心の中のことで目には見えないことだけれど、この「好き」のおかげで私は成長できていると思う。たくさんの「好き」を見つけて、毎日楽しく過ごしていきたい。

6-②

「努力の継続の大切さ」

僕は、「塵も積もれば山となる」ということわざを選んだ。なぜなら、このことわざは「努力や行動の継続がやがて大きな成果に繋がる」という意味を持っている。僕は、この意味にすごく共感しているからだ。

2学期の9月に入ると、小学校の運動会の練習が本格的に始まった。「運動会表現実行委員会」という人達が、踊りの振り付けを決めて、学校のホールや体育館で練習した。体育では、踊りの一つひとつをていねいに練習した。宿題では、見本の映像を見ながら練習をした。しかし、学校ではまだ踊りが曖昧な人がいた。それでも、個人で練習したり、お互いに教えあったり、長休みなどに集まったりして、小さい努力を継続して全員で支え合った。やがて運動会も近づき、外で練習することが増えた。外の練習では、隊形移動に苦戦したが、教え合いながら練習した。

本番では、全員の努力が結晶となり、成功できた。小さな努力でも、継続が大事である。

6-③

「一見の力」

「百聞も一見にしてしかず」このことわざに、自分も共感したことがある。それは、寝台特急サンライズ出雲・瀬戸号への乗車の時だ。

サンライズ出雲は、どのような内装になっているのだろう。乗り心地はいいのだろうか。インターネットで調べて、乗った人の動画を見ていた。本も買って情報を集めた。しかしそれは、口頭での説明や文章での説明なので、どのような乗り心地かわからなかった。そして、内装はカメラ越しなので、細かいところの内装はわからなかった。乗車当日、ついにこの列車に乗ることができた。すると、本や写真にもない細かなところが見えた。乗り心地も、実際に乗ってみると快適で、動画では知ることができないことも分かった。

この体験は、百聞も一見にしかずということわざの意味と全く同じだった。ことわざというのは、日常生活の中に忍び込んでいるようなものだと思えた。このことわざを考えた人は、どんな体験をしたのだろうか。

6-④

「続けることの大切さ」

「もうピアノなんて大嫌い。」私は心の底からそう思った。やけっぱちになって、楽譜を乱暴に置いた。口から出てくるのは、暗いため息だけだ。

その気持ちをピアノの先生に伝えたら、こんなことを話してくれた。「やめてしまったら、それで終わり。続けていくことが大事だよ。先生も続けてきたから、今があるんだよ。」嫌な練習はせずに弾きたい曲を弾いてみるようアドバイスをもらった。その話を聞いて、少し気持ちが楽になり、またやってみようかなと思えた。

ある時、駅でピアノの演奏が聞こえてきた。とてもきれいな曲を女の人が弾いていた。ストリートピアノと言うそうだった。弾き終わると、遠くからも拍手が聞こえた。いつか、私も大人になって好きな曲を好きなように弾きたい。この人もずっと続けてきたから、かっこよくピアノが弾けるのだろう。その時、この言葉の意味が分かった。「継続は力なり」

6-⑤

「ことわざから学ぶこと」

自分に合うことわざは何だろうと考えてみた。「良薬は口に苦し」ということわざが、一番よく合っていると思う。良薬は身体に良いけれど、決しておいしくはない。むしろまずい。このことわざを、ある出来事で実感した。

ぼくは、家でピアノの練習をする時に、疲れて音を間違えてしまうことがある。すぐに気がつき、直そうとしたが、お母さんに「音が違うよ。楽譜をよく見て。」と指摘されると、つい怒ってしまう。さらに何度も指摘されると、間違えたまま引き続けてしまったことがある。今考えると、素直にお母さんのアドバイスを聞いて弾き返せば、もっと早く上達しただろう。

このことから、先生や親からのアドバイスは良薬だと思う。その時は、嫌な気持ちになっても、素直にアドバイスを受け止めていけば、もっと早くしっかりとした音が出せたと思う。このことわざを知り、ぼくは苦く大変なことがあっても、逃げることなく素直な心でいようと思った。

6-⑥

「二十四時間、どう使うか」

ぼくはゲームが大好きだ。ゲームをしている時間は短く感じるが、勉強などの嫌なことをしていると、とても時間がゆっくりに感じる。

ぼくは、暇さえあればすぐゲームをしようかなと思ってしまう。しかし、将来役に立つのはゲームではなく勉強だと思う。だから、ぼくは最近、何にどのくらい時間を使ったらいいかを考えるようにしている。そうすることで、ゲームをする前に宿題をやったり、サッカーの自主練習をやったり、サッカーの自主練習をしてからゲームをしたりするなど、優先順位をつけられるようになった。

時間は誰でも1日24時間と決められている。でも、その限られた24時間をどのように使うかは、自分次第で将来

が変わると思う。「時は金なり」を意識して、ゲームをし過ぎずに毎日充実した生活を送りたいと思う。

6-⑦

「キャプテン」

「我が身をつねって人の痛さを知れ」このことわざは、よその人の辛さを自分のことと考えて思いやるという意味だ。まさに、私の理想の生き方として、ピッタリのことわざだった。

私は、ミニバスのキャプテンになった時、このことわざを体現したようなキャプテンでありたいと思った。でも、実際はそう上手くはいかなかった。人の辛さを自分のことのように感じるのは、思ったより難しく、厳しい言葉で仲間を傷つけてしまうこともあった。しかし、キャプテンになって約8ヶ月もたつと、厳しい言葉ではなくその人の気持ちも考えて、声かけをすることができるようになった。

人の痛みに寄り添うには、まずその人のことを知ることが大切だ。ミニバスを卒団するまであと5ヶ月。それまでに私は、もっともっと良いキャプテンを目指したい。私は、人の痛さを知ることができる人になりたい。

6-⑧

「備えあれば憂いなし」

「訓練、訓練。地震が発生しました。」その時だった。私は今まで、避難訓練はやる意味があるのか疑問に思っていた。でも、必要なことであると訓練の後に思った。

実は校庭に集まった時に、校長先生がこうおっしゃった。「備えあれば憂いなし。このあと30年以内で、80%ぐらいの確率で南海トラフ巨大地震が起こります。」この巨大地震について家で調べてみたら、山梨は最大で震度7。驚いた。私は今まで「地震なんて起きない」とまで思っていた考えをひっくり返された。私は、このことが起きてからでは遅いと思った。それから家で、ライトや缶詰を買った。何時起きてもおかしくないものに対しての、子どもなりにできることをやってみた。

まだ効果が出ているわけではないが、起きるかもしれないことが最悪のケースで起きてもいいようにしたいし、日常生活でも「備えあれば憂いなし」を胸に生きていきたい。